

5つのプロセスでつなぐ 「生きて働く知識及び技能」の習得を目指した国語科の授業づくり

プロセス1

実態把握

「国語科習得確認表」

プロセス5

学習評価

授業評価シート
(評価)

改善

指導・
評価

個別指導計画の指導目標

各教科等

教科別の
指導

各教科等
を合わせた
指導

自立活動の
指導

自立活動

プロセス2

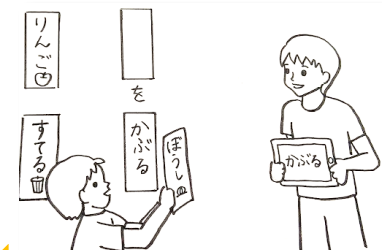
「国語科習得確認表」の活用
目標・指導内容の精選

年間指導計画モデル

活動案

プロセス4

学習状況に応じた
授業



授業評価シート
(評価の計画)

プロセス3

指導目標と
評価規準の設定

プロセス 1

発達の段階の確認、教科の学習状況確認などの
実態把握

国語科の学習状況を
把握する。

学習指導要領に示された 各段階の目標と児童の姿

確認項目

国語科のどの「段階」の内容を
扱うのが適切か？

確認○	実態把握の項目（例）
	国語科の学習状況
	教材・教具の実施状況
	発達の段階（心理・発達検査等の結果など）
	自立活動の指導目標
	特性（性格、得意不得意など）
	興味・関心

※個別指導計画や学校生活支援シートを活用する。

[illegible]

プロセス2へ

プロセス2

「国語科習得確認表」を活用し
学習指導要領が示す「段階」に基づく
目標・指導内容の精選

目標・指導内容を精選し、
計画を立てる。

確認項目

確認○	指導目標の項目
	指導集団や個の学習状況を踏まえた指導目標を設定している。
	単元や題材、内容のまとまりで達成を目指す指導目標を設定している。
	学習指導要領に示された目標・内容に基づく指導目標を設定している。
	個別指導計画の目標を踏まえて指導目標を設定している。

「国語科習得確認表」で
確認した学習状況

知識及び技能「ア言葉の特徴や使い方に関する事項」	
(ア)日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	
語彙	<div>■文字に音があることに気付き、読もうとしたり、尋ねたりする。</div> <div>■身の回りの平仮名をまとまりとして読む。(2、3文字)</div> <div>□身の回りの平仮名をまとまりとして読む。(3、4文字)</div> <div>□行をまとまりとして読む。(ア行、力行など)</div> <div>□平仮名五十音を読む。</div> <div>□平仮名清音の色々な単語を読む。</div> <div>□濁音や特殊音節を読む。</div> <div>□濁音や特殊音節を含む単語を読む。</div>
思考力、判断力、表現力等「書くことに関する事項」	
記述	<div>■決まった文字の組み合わせがあることを知り、具体物や絵、写真などと単語や文字カードを一致する。</div> <div>□自分の名前や物の名前を文字で表すことができることを知り、なぞる。</div> <div>□表したい平仮名を作るために、見本の文字をなぞったり、書ける文字を書いたりして表す。</div>

目標・指導内容の精選

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等	ウ 学びに向かう力、人間性等
動物や食べ物、友達の名前など、身の回りの2、3文字の平仮名に気付き、読むことができる。	動物や食べ物など、身の回りの2、3文字の平仮名を読み、言葉で伝えたり、平仮名と絵や写真を対応させたりできる。	活動に繰り返し登場する平仮名や日常生活に登場する平仮名を自ら読み、言葉や行動で表現することができる。

学習指導要領が示す目標・内容との関連を図り、具体的な指導目標を設定する。

ア「知識及び技能」及びイ「思考力、判断力、表現力等」の目標を達成する学習過程における粘り強い取り組みや自らの学習の調整について目標を設定する。

プロセス3へ

プロセス 3

児童一人一人の実態を踏まえた 指導目標と評価規準の設定

実態差に対応した、段階的な
評価の計画を立てる。

確認項目

確認○	指導目標と評価規準の項目
	段階的な指導目標や個別の指導目標を設定している。
	段階的な評価規準や個別の評価規準を設定している。

国語科 年間指導計画モデル (小学部1段階用)

児童の目標設定や学習活動の設定の参考にする。実態に応じて難易度や使用する教材・教具を変える。

国語科小学部1段階の目標 (学習指導要領より抜粋)

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
日常生活に必要な言葉が分かり使用できるようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	言葉で表すことやそのよさをかんじるとともに、言葉を使うという態度を養う。

年間指導計画

月	単元名(時期)	主な単元目標 何ができるようになるか	学習指導要領の内容	具体的な活動例
4月	なまえはなあと ○時期	知識及び技能 呼名に気付き、身近な大人と好きな関わりをすることができる。	思考力、判断力、表現力等 呼名に気付き、身近な大人と好きな関わりを求めたりする。	学びに向かう力、人間性等 呼名に気付き、身近な大人と好きな関わりを求めたりする。
5月	からだあそび ○時期	知識及び技能 「はなはな」「はなはな」などの動作を表す言葉や、「はなはな」などの動作の言葉が分かる。	思考力、判断力、表現力等 「はなはな」「はなはな」などの動作を表す言葉や、「はなはな」などの動作の言葉が分かる。	学びに向かう力、人間性等 「はなはな」「はなはな」などの動作を表す言葉や、「はなはな」などの動作の言葉が分かる。
6月	うごきのあることば ○時期	知識及び技能 「食べる」「飲む」などの言葉や日常生活で使用する物の用途が分かる。	思考力、判断力、表現力等 「食べる」「飲む」などの言葉や日常生活で使用する物の用途が分かる。	学びに向かう力、人間性等 「食べる」「飲む」などの言葉や日常生活で使用する物の用途が分かる。

学習活動に即した指導目標

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等	ウ 学びに向かう力、人間性等
①動物や食べ物、友達の名前など、2、3文字の平仮名に気付き、目を向けるなどして着目する。	①身近な2、3文字の平仮名に気付き、ヒントの文字を見て、絵や写真を対応させたりする。	①活動に繰り返し登場する平仮名を自ら読み、言葉や行動で表現する。
②動物や食べ物、友達の名前など、2、3文字の平仮名に気付き、読もうとする。	②身近な2、3文字の平仮名に気付き、言葉で伝えたり、絵や写真を単語と対応させたりする。	②活動に繰り返し登場する平仮名や日常生活に登場する平仮名を自ら読み、言葉や行動で表現する。
③動物や食べ物、友達の名前など2、3文字の平仮名を読むことができる。	③身近な2、3文字の平仮名が分かり、言葉で伝えたり、絵や写真を正しく対応させたりする。	③表したい文字を考え、言葉で伝えたり、文字カードを組み合わせで表現したりする。
④動物や食べ物、友達の名前など、2、3文字の平仮名が分かり、正しく読んだり、文字を組み合わせたりできる。	④絵や写真を見て、文字を組み合わせ、身の回りの2、3文字の平仮名を表すことができる。	

個々の実態に応じた単元の目標			
	ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等	ウ 学びに向かう力、人間性等
A児	④	④	③
B児	④	③	②
C児	③	③	②
D児	③	③	①
E児	③	②	①
F児	②	②	①

学習活動に即した評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現力	ウ 主体的に学習に向かう態度
①動物や食べ物、友達の名前など、2、3文字の平仮名に気付き、目を向けるなどして着目している。	①身近な2、3文字の平仮名に気付き、ヒントの文字を見て、絵や写真を対応させたりしている。	①活動に繰り返し登場する平仮名を自ら読み、言葉や行動で表現している。
②動物や食べ物、友達の名前など、2、3文字の平仮名に気付き、読もうとしている。	②身近な2、3文字の平仮名に気付き、言葉で伝えたり、絵や写真を単語と対応させたりしている。	②活動に繰り返し登場する平仮名や日常生活に登場する平仮名を自ら読み、言葉や行動で表現している。
③動物や食べ物、友達の名前など2、3文字の平仮名を読んでいる。	③身近な2、3文字の平仮名が分かり、言葉で伝えたり、絵や写真を正しく対応させたりしている。	③表したい文字を考え、言葉で伝えたり、文字カードを組み合わせで表現したりしている。
④動物や食べ物、友達の名前など、2、3文字の平仮名が分かり、正しく読んだり、文字を組み合わせたりしている。	④絵や写真を見て、文字を組み合わせ、身の回りの2、3文字の平仮名を表している。	

実態差に対応した
個別の目標・評価規準を設定

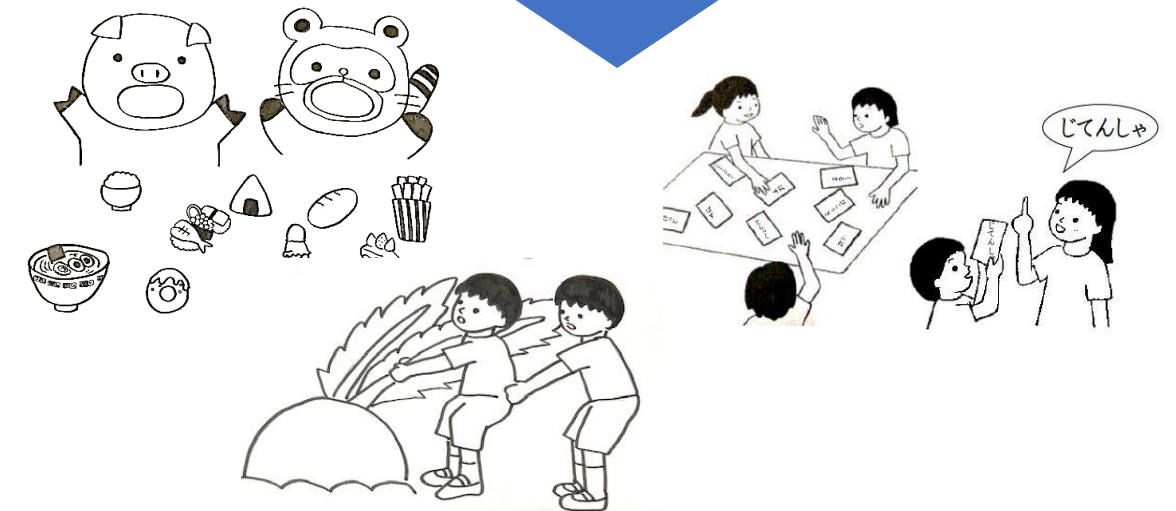
プロセス 4へ

プロセス 4

児童一人一人の目標達成にせまる
学習状況に応じた授業

学習活動を検討する。

確認項目



確認○	学習活動の項目
	興味・関心に応じている。
	発達の段階や生活年齢に応じている。
	学習指導要領が示す「段階」に基づく目標・内容を踏まえている。
	知識・技能を習得できる。 (知識・技能)
	習得した知識・技能と既存の知識・技能を活用できる。 (思考・判断・表現)
	新たな発見や気づきが生まれる。 (思考・判断・表現)
	児童が学ぶ目的や価値を感じることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)
	児童が学ぶ面白さや達成感を感じることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

確認○	教材・教具の項目
	見やすさや操作のしやすさに配慮している。
	身近な具体物などを使用し、理解のしやすさに配慮している。
	目標の達成に向けた教材・教具になっている。
	実態に応じて、難度・個数・量などの調整をしている。
	気づきや発見が生まれる工夫をしている。
	できたことを実感できる工夫をしている。

確認○	教員の指示や支援方法の項目
	声のトーンや大きさ、抑揚に配慮している。
	理解できる言葉で指示をしている。
	理解できる方法で指示をしている。
	必要最低限の支援をしている。

学習指導案（略案）例

児童一人一人の目標達成を目指した
授業の実施

単元目標	ア 知識及び技能	イ 思考力・判断力・表現力等	ウ 学びに向かう力、人間性等	
	動物や食べ物、友達の名前など、身近な2、3文字の平仮名が分かり、読むことができる。	動物や食べ物、友達の名前など、2、3文字の平仮名が分かり、言葉で伝えたり、絵や写真を単語と対応させたりすることができる。	活動に繰り返し登場する平仮名や日常生活に登場する平仮名を自ら読み、言葉や行動で表現する。	
本時の指導目標	ア ①②③	イ ①②③	児童の実態（発達の段階、学習状況など）に応じた本時の指導目標を設定する。	
	学習内容「何を学ぶか」	学習活動「どのように学ぶか」	手だて	評価規準
導入	○始まりの挨拶 (1) 予定の確認	・ 予定を確認する。	・ 予定をカードやタブレット端末で視覚的に示す。	
展開	(2) 動画「あいうえうたお♪」	・ 動画を見ながら五十音カード（行のまとまりごと）を台紙に並べる。	・ 実態に応じた五十音カードや台紙を提示する。文字や絵の示し方を変更する。	
	(3) 動物クイズ	・ タブレット端末に表示された文字を見て、読んだり、選択肢から対応するものを選んだりする。	・ 実態に応じて、クイズに登場する動物や選択肢の有無を変える。	ア-①②③ イ-①②③
まとめ	(4) 食べ物お届け指令ゲーム	・ 指令カード（友達の名前、食べ物の名前）を見て、友達の写真が貼られた模造紙に食べ物カードを貼っていく。読めない場合は、指令カードに貼られたヒントを開いて、絵と写真を確認する。 ・ 完成したごちそうを確認する。	・ 個々のかごに指令カードを入れておく。実態によって指令カードの数を変更する。かごが空になったら終わりにする。 ・ 児童に質問しながら確認する。	ア-①②③ イ-①②③
	(5) 絵本の読み聞かせ	・ 絵本に書かれた文字を拾い読みする。	・ (3)(4)で登場した文字が出てくる絵本の読み聞かせをする。	
	(6) 振り返り ○終わりの挨拶	・ 使用した教材・教具や予定カードを見て活動を振り返る。	・ 使用した教材・教具や予定カードを提示する。	

本時の指導目標を達成するための重点活動

実態差に対応した手だてを考える。

新しく習得した知識・技能を活用することができるような実生活と関連する活動や児童の興味・関心に応じた活動を取り入れる。
児童一人一人が段階的に目標を達成していくことで単元目標の達成を目指す。

プロセス5へ

プロセス5

授業改善につなげる
学習評価

目標、学習内容、手だてを
見直し、目標達成を目指す。

確認項目

確認○	学習評価の項目
	グループの学習評価を 授業ごと又は単元終了時に記録している。
	児童一人一人の学習評価を 授業ごと又は単元終了時に記録している。
	児童の学習の様子について 記述式で記録している。
	前時の学習評価を 次時の授業改善につなげている。
	学習評価を次の単元につなげている。

授業評価シートを使用した学習評価の実施

全■時間の第■時 令和■年■月■日(■)			
■■グループの学習評価			
評価の観点	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ア-①②③	イ-①②③	
学習評価	評価 ◎ ○ △	評価 ◎ ○ △	評価 ◎ ○ △
学習評価の基準	◎全ての児童が達成できた ○4、5人の児童が達成できた △半分以上の児童が達成できなかった		
対象児3名の学習評価			
評価の観点	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
A児	動物や食べ物、友達の名前など、2、3文字の平仮名に気づき、前時に学習した単語を読んでいる。	動物や食べ物、友達の名前など、2、3文字の平仮名に気づき、言葉で伝えたり、絵や写真を複数の単語と対応させている。	
学習評価	評価 ◎ ○ △	評価 ◎ ○ △	評価 ◎ ○ △
B児	動物や食べ物、自分の名前など、身近な2、3文字の平仮名に気づき、前時に学習した単語を読んでいる。	ヒントの文字を手掛かりに、動物や食べ物、友達の名前など、2、3文字の平仮名に気づき、言葉で伝えたり、絵や写真を複数の単語と対応させている。	
学習評価	評価 ◎ ○ △	評価 ◎ ○ △	評価 ◎ ○ △
C児	動物や食べ物など、2、3文字の平仮名に気づき、読もうとする。	ヒントの文字を手掛かりに、動物や食べ物など、2、3文字の平仮名に気づき、絵や写真を対応させている。	
学習評価	評価 ◎ ○ △	評価 ◎ ○ △	評価 ◎ ○ △
学習評価の基準	◎達成できた ○芽生えが見られた △達成できなかった		
行動記録	A児は、前時の学習した内容を踏まえて、クイズに答えたり、指令ゲームに取り組んだりしていた。新しい単語についても、文字を読もうとしていた。B児は、「さる」や「ねこ」など複数の単語を読むことができた。難しい単語は、タブレット端末で確認したり、ヒントを確認したりしていた。C児は、選択肢から選んだり、ヒントを確認したりしながら文字が表しているものを読もうとする姿があった。「ねこ」や「みかん」はヒントがなくてもまともで読むことができていた。		
指導の評価			
指導評価	評価 ○ △ (A B C)	評価 ○ △ (A B C)	評価 ○ △ (A B C)
指導評価の規準	○妥当性があった △見直しが必要 (A 目標の見直し B 指導内容の見直し C 手だての見直し)		
次時への改善点	ヒントがなくても読むことができそうな単語「いぬ」「ねこ」「とら」「みかん」「おでん」などは、ヒントカードをなくす。 クイズでは、新規単語については選択肢で示し、既習単語については、1回目は文字のみ提示し、読むことができるか確認する。難しい場合のみヒントや選択肢を示す。		

単元計画(評価の計画)を作成し、単元目標や本時の指導目標に対する評価を組織的に記録し、個別指導計画の評価につなげる。